

## 〔国 語〕

○ 実 施 時 間 【8：30～9：20】（50分）

○ 次の注意をよく読んでおくこと。

- (1) 「始め」の合図があるまで問題用紙を開かないこと。
- (2) 問題は 一 ～ 四、15 ページまであります。
- (3) 答えはすべて解答用紙の解答らんにはっきりと、ていねいに書きなさい。
- (4) 答えを直すときは、きれいに消してから書きなさい。
- (5) 内容に関する質問は受け付けません。
- (6) 気分が悪くなったり、トイレに行きたくなったら、手をあげて<sup>かんとく</sup>監督の先生に合図しなさい。
- (7) 「終わり」の合図があったら、直ちに筆記用具を置き、解答用紙が回収されるまで待っていなさい。
- (8) 解答上の注意
  - ・ 字数指定のあるものは、句読点〔。、〕および「 」や（ ）なども一字と数えること。
  - ・ 文末表現は、「こと」、「から」など、問いにふさわしい形にし、文の終わりには句点〔。〕をつけなさい。

受験 番号		氏 名	
----------	--	--------	--

- ① 次の——のカタカナを漢字に改めなさい。
- ② 面会シヤゼツのため、彼に会うことはできない。
- ③ 会社の役員をサツシンする。
- ④ 彼の作り上げたギョウセキはすばらしい。
- ⑤ 政権をジュリツさせる。
- ⑥ 合格というロウホウを受けて喜んだ。
- ⑦ アルバムを見て、昔のことをソウキする。

① 次の——のカタカナを漢字に改めなさい。

- ⑦ 自動車の交通をキセイする。
- ⑧ 年末年始にキセイする。
- ⑨ 私のセイカは宮崎県にある。
- ⑩ 東京オリンピックのセイカランナーに選ばれた。

② 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

家に帰ったチャオミンは土間に座りこみ、文字の練習を始めた。字が書けるようになったことが嬉しくてたまらない。土間の床に棒で書く。土でできた床は、とがったものでなぞると形がつくのだ。

「一つ空には」

口ずさみながら棒の先で書きつけていく。

「娥眉……、あれ？」

だが、さっそく文字が詰まってしまい、チャオミンは首をかしげた。

「うーんと、娥、はどうだったっけ？」

思いだそうとチャオミンがうなづけていると、台所で煮物を作っていた母さんがひよいと顔をだした。母さんはそばに座ると、こうじゃない？ と指を動かした。それは確かに、娥、という文字だった。

「あ、そうだ！」

チャオミンはすっきりしたが、すぐにまた、あれ？ と首をかしげた。

「母さん、ニューシユを知っているの？」

母さんは文字の読み書きができないはずだ。そもそもあまり関心がないらしく、チャオミンが文字を教わりたと言ったときも、少し困ったような顔をした。なのに、わからない字をすぐに書いて教えてくれるなんて。

「インシエンはニューシユなんて書けないよ」

そのとき、突然びしゃんとした声がきこえた。振りかえると、入り口につえをついたイーレイおばあさんが立っていた。

「まあ、お義母さん、いらっしやいませ」

母さんははじかれるように立ちあがり、「すぐにお茶をお出しします」と台所へ行ってしまった。隣に住むイーレイおばあさんは、

チャオミンの家にしよつちゅうやってくるが、そのたびに母さんはまずお茶の準備をしなくてはならない。それが客に対する最低の礼儀なのだそうだ。

「ハル族の女たちは、文字を持たないの。ニューシユの読み書きができるのは、漢族の女だけだよ」

面白くなさそうに言いながら、イーレイおばあさんはつえを頼りによたよたと歩いてくると、「よいしょ」と上がり口に腰をかけた。このごろイーレイおばあさんの足取りは頼りなくなっている。同じ年ごろのジュエイおばあさんは、毎日元気に畑仕事に行っているが、イーレイおばあさんは、歩くのもしんどそうで、こうやって隣までくるのもやつとという感じだ。この足のせいかな。

チャオミンはおばあさんの小さな足を見た。そしてふと思いだしたことがあつたはずねてみた。

「てん足をするのも、漢族の女の人だけ？」

イーレイおばあさんはゆつくりとうなずいた。

「ああ、そうだよ。漢族の女は野良仕事なんかする必要がないから、小さい足のままでいるんだよ」

おばあさんは前にきいたことと同じことを言ったが、それではつじつまが合わないこともある。

「じゃあどうしてジュアヌはてん足をしてないんだろう。ジュアヌも漢族なのに」

「ああ、それはね」

イーレイおばあさんは、<sup>④</sup>すつと背筋を伸ばした。

「同じ漢族でもちがうんだよ。女が働かなくていい豊かな漢族と、そうでない漢族がいるんだ」

そのときチャオミンには、「どうしてジュアヌはてん足をしていないの？」とたずねたときの、<sup>⑤</sup>火を噴くように怒った顔をしたジュアヌの気持ち、わかったような気がした。「豊かな漢族」と言ったときのイーレイおばあさんが、とても誇らしそうだったからだ。

私はジュアヌに失礼なことを言ったのかもしれない。

いたたまれない気持ちになつてうつむくチャオミンに、イーレイおばあさんは何か勘違いしたのか、こんなことを言った。

「ジュアヌの家のことを心配しているんだね。さすがチャオミンは私の孫だ。富める者は貧しいものを思いやるということがわかっているね」

「でも心配はいらないよ。ジュアヌの父さんは、このごろドーホンと薬草を採りにいつてるというじゃないか。じきに暮らしも楽になるだろう」

満足そうに言葉を重ねるイーレイおばあさんのところへ、母さんがお茶を運んできた。

「おそくなりました。茉莉花茶です。ちょうど飲みごろの温度です」

「ああ、ドーホンが採ってきた茉莉花茶だね」

イーレイおばあさんは、湯飲み茶碗を受け取り、「ああ、いい香りだ」と<sup>\*</sup>を細めて、ひと口飲んだ。

「ドーホンは今日も山へ行ってるんだろう？」

「はい。朝早く出かけました」

「よく働けね。家族にもつと楽をさせたいとひとりで頑張ってるんだろう。でも働きすぎは良くないよ。体を壊したら大変だ」

「ドーホンばかり働かせないで、あんたももう少し働いたらどうかね。せつかくそんな立派な足を持っているんだからさ」

そう言うと、飲み終わった茶碗を母さんに差しだして、おばあさんはまた「よいしょ」と立ちあがり、「ではね」とゆつくりとした足取りで家を出ていった。

イーレイおばあさんの姿がすっかり見えなくなつてから、チャオミンは母さんを見やった。

「イーレイおばあさんは、少し意地悪ね」

前から薄々感じていることだった。特に母さんに対して厳しいことばかり言うと思う。前に母さんが出したお茶が熱すぎると言つて、怒つて飲まなかったこともある。

チャオミンが顔をのぞきこむと、母さんは意外なことを口にした。

「あれでもだいぶ優しくなったんだよ」

「え？ あれで？」

「そうよ。母さんが、結婚してここに来たばかりのころは、話もろくにしてくれなかったんだから」

「本当？」

チャオミンが眉毛を寄せると、母さんはしまったという顔をした。

「あら、余計なことを言っちゃった。でも、昔は、結婚すると女の人はそれくらいのことあたりまえだったんだよ。だけど今はちがうから、心配しなくていいよ」

母さんは取り消すように笑ったが、チャオミンは今日のことを思いだした。三朝書を、「結婚していく女の人の幸せを心から願って思いをこめて書くんのだ」と力をこめて言ったユンエイは、体のどこかが痛いような顔をしていたっけ。

「それにお義母さんは、ハル族のことが少しうらやましいのかもしれない」

「え、どうして？」

チャオミンには理解できなかった。だってイーレイおばあさんは、漢族であることを誇りに思っているのだ。そして、どちらかといえは、ハル族の人たちをばかにしていると感じる。

けれども母さんは、こんな風に続けた。

「だってハル族の女たちには、自由があるから」

「自由？」

「そう。この足で、野山をかけ回れる。それに歌も歌える。歌を歌って軽い足でかけ回れば、たいいていのごとは忘れられる。いざとなったら逃げればいいんだし」

「えー、母さん。逃げないで」

悲鳴のような声を出すチャオミンに、「ごめんごめん、心配させてしまったね」と母さんは笑って言った。

「だいじょうぶ。私はチャオミンのいるこの家が大好きだから。それに、あなたのお父さんのことも尊敬している」

母さんは真剣な顔でうなずくと、チャオミンの視線の高さまで腰をかがめた。

「あなたはてん足をしてしまったけれど、その代わりに文字をしつかり学びなさい。文字があなたの足の代わりだよ」

「文字が足の代わり？」

「そう。思いをつづることで、心がきつと自由になる」

⑥「……わかった」

チャオミンはまっすぐな母さんの目を見つめながら、深くうなずいた。

強く自分に言いきかす。

もつとニューシュのおけいこをがんばろう。

そして自由に書けるようになるう。あの美しい文字で。

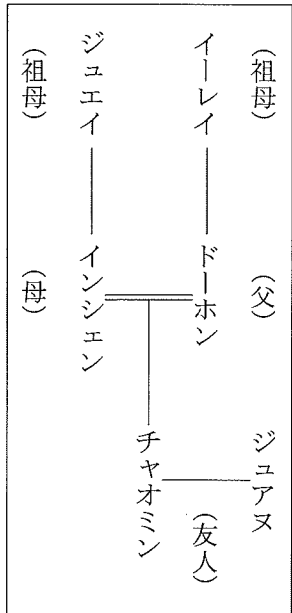
(まはら三桃『思いはいのり、言葉はつばさ』アリス館より)

注1 ニュウシュ……女書。女性だけが読み書きする文字。

注2 てん足……女の人の足に布を巻き、大きくならないようにする中国のかつての風習。

注3 三朝書……結婚する女性に対するお祝いの気持ちをニューシュで書いたもの。

注4 ユンエイ……チャオミンとジュアヌにニューシュを教える女性。



問1 ①とありますが、チャオミンはなぜ「首をかしげた」のですか。四十字以内で答えなさい。

問2 ②とありますが、この表現から読み取れる母さんの様子として最もふさわしいものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア はしゃいで立ち上がる様子。 イ いやいや立ち上がる様子。 ウ 照れながら立ち上がる様子。

エ ばかにして立ち上がる様子。 オ 急いで立ち上がる様子。

問3 ③とありますが、「つじつまが合わない」とは、筋が通らないという意味です。チャオミンが感じた「つじつまが合わないこと」とはどのようなことですか。五十字以内で答えなさい。

問4 ④とありますが、この時のイーレイおばあさんの心情として最もふさわしいものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 期待 イ 自負 ウ 同情 エ 失望 オ 共感

問5 ⑤とありますが、ジュアヌが「火を噴くように怒った」のはなぜだと考えられますか。「てん足は」という言葉に続くように、六十字以内で説明しなさい。

問6 \*にあてはまる、体の一部をあらわす漢字一字を答えなさい。

問7 ⑥とありますが、この時のチャオミンの心情を説明したものとして最もふさわしいものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 自分は自由に歩き回れないので家から出ることにはできないが、文字を学ぶことで世界中の人たちにニューシユのすばらしさを伝えることができるのだと喜んでいる。

イ 漢族ではないというだけで差別される母の代わりに、漢族の自分が文字の練習に真剣に取り組み、周囲を見返してやろうと気を引きしめている。

ウ 自分は母さんのように自由に野山をかけ回ることにはできないが、代わりに、自由に自分の思いを表現できる文字をしっかりと学ぼうと決心している。

エ 漢族の女性の中でも限られた人たちがしか習うことのできないニューシユを、自分がしっかりと受け継ぎ、次の世代に伝えていくことを誇らしく思っている。

オ 漢族である自分が文字をしっかりと学ぶことによって、中国における民族間の争いをなくし、平等で自由な世の中を作ろうと決意している。

四 次のIとIIを読んで、後の問いに答えなさい。

## I

プラスチックは軽量で耐久性があり、好きな形に成形することができ、かつ安価に生産できるなど、極めて有用で、革命的とさえ言える素材だ。また、プラスチックに添加剤を混ぜることで、私たちの望む特性をもたせることができる。a、ビスフェノールAとフタル酸エステルを添加することで、「水に強く、燃えにくい」プラスチックができる。こうしてプラスチックは「何にでも使える」素材となってきた。「1」

現在は、環境問題の元凶のように目されているプラスチックだが、実は「環境保護のためにその利用が増えてきた」経緯もあると聞くと驚くかもしれない。初期の頃、プラスチックが多用されるようになった理由には主に二つあるという。

一つは、野生動物の保護だ。従来、装飾品などの材料として使われていた象牙やウミガメの甲羅をプラスチック材料で代用することで、ゾウやウミガメなどをできるだけ殺さずにすむ、というものだ。もう一つは、どのみち廃棄物になるしかなかった製油所からの副産物をプラスチックペレットとして利用し、経済的な価値に転換するという、廃棄物の有効活用である。

今世紀最大の課題と言われる温暖化の問題に対しても、軽量で耐久性の高いプラスチックは社会・経済活動に伴う温室効果ガスの排出量低減に役立つてきた。たとえば飲料ボトルがガラスからプラスチックに代わることで、軽量化が進み、輸送時のCO<sub>2</sub>排出量が削減される。容器包装に高性能プラスチックを使用することで、食品貯蔵寿命を延ばすことができ、食品ロス削減につながる。「2」

①このように、プラスチックは多くの分野や製品・用途において、環境負荷低減に役立つてきた。しかし、プラスチックは人間が創り出したA物であり、自然の中には存在しない。プラスチックをこれほどまでに特別で有用な素材にしているその特性ゆえに、プラスチックは基本的にBに還ることができないのだ。プラスチックごみの大きな問題の一つは、「完全にCされることはない」ことだ。より細かく砕かれていっても、消えることはない。たとえ肉眼では見えなくなったとしても、環境中に残り続ける。たとえば発泡スチロール製の容器は、分解するのに数千年もかかり、その間、水や土壌を汚染し続けるという。

プラスチックは基本的に自然に還らないため、これまでに生産されたプラスチックのほぼすべてが——埋立場であれ、海の中であれ——今でもDし続けているのだ。

## II

その便利な性質のゆえに、大量に生産・使用されるようになったプラスチックだが、人間が創り出した人工物であるがために、基本的に自然に還ることはできない。とすると、使用済みのプラスチックはリサイクルされるか、廃棄されるしかない。「3」

ローランド・ガイヤー（カリフォルニア大学教授）らは、一九五〇年から二〇一五年の間に生産されたバージンプラスチックの総量八三億トンに対して、累積で六三億トンのプラスチックごみが発生したと推定している。うち八億トン（二二%）が焼却され、六億トン（九%）がリサイクルされ、七九%にあたる約四九億トンは廃棄されて埋立地や自然環境中に蓄積しているという。膨大な量のプラスチックのうち、リサイクルされているのは一割にも満たないのだ。b、二回以上リサイクルされているのはそのうちの二〇%しかない。

現在の生産と廃棄物管理の趨勢が続くとしたら、二〇五〇年までに、約一二〇億トンのプラスチックごみが埋立地か自然環境中に存在するようになるかと推計されている。

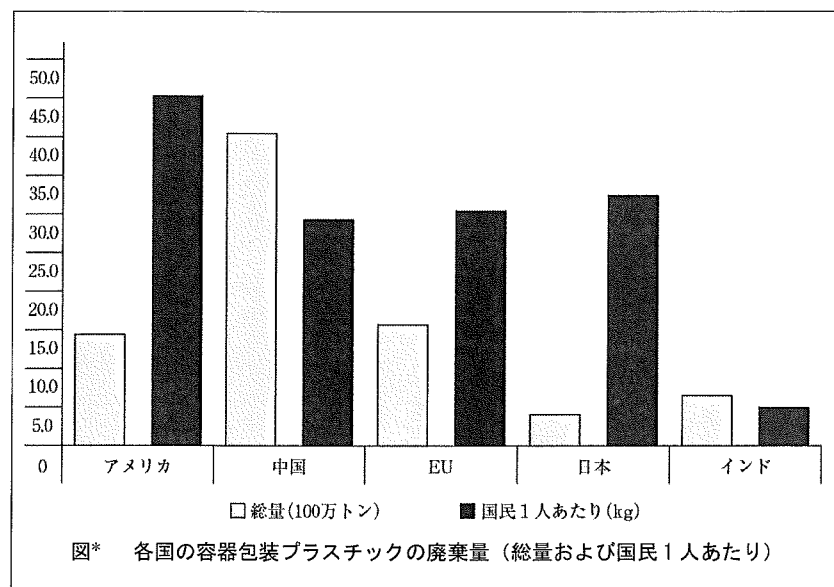
製品プラスチックに比べて、容器包装プラスチックは使い捨てられることが多いため、廃棄物になりやすい。実際、プラスチック廃棄物全体の約半分を容器包装プラスチックが占めている。二〇一五年のデータによると、世界全体で容器包装用のプラスチックごみは一億四一〇〇万トン発生しており、うちリサイクルされたのは一四%に過ぎない。それも効果的なりサイクルはわずかで、多くはもとのプラスチックより品質の劣ったものにリサイクルされている。残りの八六%のうち、埋め立てが四〇%、焼却が一四%で、三二%は環境中に流出しているという。「4」

国別にはどうか？ ガイヤーらが行った各国の容器包装プラスチックの廃棄量の計算によれば、総量では中国が群を抜いて多く、欧州・米国が第二位、第三位となっている。日本はインドを下回り、ごくわずかに見えるが、国民一人あたりの廃棄量を見ると米

国に次いで多い(図)\*。

UNEPのレポートによると、環境中に最もよく見られる使い捨てプラスチックは、タバコの吸殻、飲料用ボトル、ペットボトルのキャップ、食品包装紙、レジ袋、プラスチック製のフタ、ストロー、マドラー、その他のプラスチック製の袋、発泡スチロール製の持ち帰り用容器である。

(枝廣淳子『プラスチック汚染とは何か』岩波書店より)



- 注1 ビスフェノールAとフタル酸エステル……どちらもプラスチックに含まれる化合物の種類。
- 注2 プラスチックペレット……プラスチック原料を加工しやすいように粒状にくださったもの。
- 注3 リサイクル……廃棄物を回収して再利用すること。
- 注4 パーシンプラスチック……原材料から加工されたプラスチックのうち、まだ一度もリサイクルされていないもの。
- 注5 U.N.E.P.……United Nations Environment Programmeの頭文字を合わせたもの。国際連合総会の補助機関である国際連合環境計画のこと。

\* 出典図書では「図3」と表記されているが、問題作成の都合上、「図」に改めた。

問1  a・bに入る言葉として最もふさわしいものを次の中から選び、それぞれ記号で答えなさい。

- ア しかし イ あるいは ウ しかも エ では オ たとえば カ すると

問2  A～Dに入る言葉の組み合わせとして正しいものを次のア～カの中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア A人工——B環境——C分解——D生産
- イ A自然——B環境——C汚染——D分解
- ウ A自然——B大地——C汚染——D分解
- エ A固形——B大地——C廃棄——D存在
- オ A固形——B自然——C廃棄——D生産
- カ A人工——B自然——C分解——D存在

問3 次の一文は、「」1～4のいずれかに入ります。最もふさわしいところを選び、1～4の数字で答えなさい。

現在、どのくらいのプラスチックがリサイクルされているのだろうか？

問4 — ①とありますが、次のア～エのうち、I・IIで「環境負荷低減」に役立つと説明されているものには○を、説明されていないものには×をつけなさい。

- ア 装飾品などの材料として、これまで使われていた動物の一部ではなくプラスチックを使うこと。
- イ 製油所からの副産物をプラスチックペレットとして利用することで、廃棄物を有効活用すること。
- ウ 使い捨てられることが多い容器包装プラスチックを再利用し、発泡スチロールにすること。
- エ 容器包装に高性能プラスチックを使用することで、食品ロス削減につなげること。

問5 次のア～オのうち、I・IIの内容と合っているものを一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 中国の容器包装プラスチックの廃棄量の総量は多く、アメリカに次いで二位である。
- イ 二〇五〇年までには、約二二〇億トンのプラスチックごみの一割がリサイクルされると推計されている。
- ウ 二〇一五年のデータによると、世界全体の容器包装用のプラスチックごみは、八六%がリサイクルされていない。
- エ プラスチックは軽量で耐久性があり自然に還ることもないため、ほとんどのものがリサイクルされている。
- オ UNEPのレポートによれば、発泡スチロール製の容器は分解するのに数千年もかかるが、水や土壌を汚染することはないとされている。

問6 次の会話文は、I・IIを読んだ後に獨太君と協平君が話し合っている場面です。

X・Yに入る言葉を考え、それ

ぞれ三十字以内で答えなさい。

獨太 なかなか興味深い文章だね。プラスチックが環境汚染の原因になるなんて、今まで知らなかったよ。

協平 図を見ると、プラスチック廃棄量の総量が中国はとも多いよね。それに比べれば日本はプラスチックによる環境問題について気にする必要は無さそうだね。

獨太 ところが話はそう簡単ではないみたい。もう一度図をよく見てごらん。たしかに日本は中国と比べて

Y。

X けど、

協平 そっか、ぼくたちにもプラスチックによる環境汚染の問題は他人事じゃないんだ。

獨太 これからのぼくたちの日常生活にも、今日学んだことが活かせそうだね。一緒に考えていこう。